

御霊に励まされて

喜友名 朝順

「なんで良いサラリーの仕事で辞めて献身なんか…」こんなこと言われたの一年間毎日が戦いでした。あの手、この手とサタン誘惑もありました。その度に、「私と私の家族とは共に主に仕えます」と、という言葉に励まされ、誘惑も家族の信仰の訓練として、父なる神が許して下さったものだしイエス様も執成して下さるのだと御霊に励まされて歩むことができました。今は心から感謝しております。また主に仕えるとは何なる事かを、先生方との交わりの中で更に深く教えられました。牧会の傍らでの御奉仕を心から感謝しております。逆に学ぶ側もっと熱心にならなければと御霊のチャレンジを受けるばかりです。まだあと二年の学びを残しておりますが、大いに期待しています。来年は新入生募集の年でもありませんので、主が沖繩聖書神学校に更に多くの献身者を送って下さるよう心から願ひまた祈る毎日です。そしてこの事を通して、主が沖繩聖書神学校の働きを更に祝福して下さるよう祈る者であります。

一年間をふり返って

平安座 幸恵

私にとって、この一年間は体力的にも精神的にも鍛えられた毎日でした。具志川から、それぞれの教会への通学です。乗用車での通学でしたが、やはり遠い距離です。往復するだけでとても疲れて毎日が不安でした。一年間もつかしらというよりも、今週続けて行けるかしらという毎日。帰ってきたらすぐ横になってしまふ。自分でもどこからこんな疲れが出るのかしらと思つて程でした。運転をしながら、近い所、交通の便利な所に、学校があればと強く願わされました。学校での学びは、ただついでいくのには必死の毎日でした。社会人としての時が長かつたせいか、じつと座って講義を聞くことも、私にとっては訓練の場だと言ひ聞かせつづけて下さりました。

神学校から

この三月神学校は二年振りに六人目の卒業生を世に送り出すことになりました。校長先生始め、諸教授方もその日を喜びをもち楽しみにしておりました。無事卒業されるのは那覇教会出身の伊是名雅称兄です。伊是名兄は幼少の頃は病弱だったそうですが、恵みを得て献身し、共に健康も祝福されて四年間のハードな学びも克服されました。ほんとおめでとうございます。

主に感謝

伊是名 雅称

生れつき体の弱い私でした。今まで病院にお世話にならないで半年たりとも暮らしたことの無い私でした。しかし不安のうちにもこの神学校に入学して以来、体も守られ自分でも驚く程健康な毎日で学びに励んで来ました。在学中に結婚し子供まで与えられました。学びの方も苦しい中、同級生や先生方に励まされて来れました。厳しい組織神学、むつかしいギリシヤ語やヘブライ語、牧師になるにはこんなにも学ばなくてはならないと思える程あらゆる分野に亘つて学びました。牧師先生方の学びの多さに敬服させられました。神学、牧会、教育、伝道者と多岐に亘つて学問が要求されます。こうして四年間それなりに学びを終えられた事は感謝でした。でもこれからは大変だと思っております。これまでは教室での学びでした。これからは実践として、主の教会の中で生きた人々を相手にして働いていくのですから、教室の学びが実践でどの程度役立つか知れませんが、皆様の励ましと、支えによって託された主の業に専心していきたく思っております。よろしくお願い致します。

牧会の協力者となろう



沖繩信徒聖書学校

校長 国 吉 守

「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。わたしがお祈りするとき、聖書を朗読すること、勧めをすること、教えることに心をを用いなさい。」(第一テモテ五・一二、一三)

若葉萌える春、主に在る兄弟姉妹もますます霊に燃え主に仕えておられることを心から感謝いたします。

さて、きょうは特に沖繩信徒聖書学校の卒業生、在学生の皆様にお話し申し上げたいと思います。パウロは若いテモテに大きな期待をもって、信者の模範になることと聖書を教えることについて話しておりますが、私も、皆様に次の二つの点を特に強調したいと思っております。

第一は、信者の模範になること。パウロは、年が若いから、経験がないからという理由で人から軽んじられたり、批判されたりしてはならない、むしろ、言葉にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさいと勧められています。礼拝出席、祈禱会出席、伝道、あかし奉仕、献金などキリスト者としての基本的な生活で他の教会員の模範になっているでしょうか。自らよく反省し、教会員として教会活動に積極的に、建設的に奉仕をして教会者を助けてほしいのです。

第二は、聖書を教えること。リバイバルは信徒一人ひとりが神のみ言葉に真剣に聞き、従い、祈り、聖霊に満たされる時に起ります。皆様がそのリバイバルのため一人のリーダーになって戴きたいのです。そのために、教会によっていろいろな事情は異なっていると思いますが、よく牧師と相談を

されて、一つの家庭集会または地域集会のリーダーになって聖書を教えて下さい。パウロは「聖書を朗読すること、勧めをすること、教えることに心をを用いなさい」と勧められています。沖繩信徒聖書学校の卒業生はすでに百名以上です。一人ひとりが地域集会のリーダーになるならば、聖書学校卒業生だけでも百以上に地域集会ができます。勿論、卒業生の中にはすでに牧師になられた方や、また現在、地域集会のリーダーとしておられる方もあります。それは本当にすばらしい事です。願わくは全卒業生が一つの地域集会を担当して、羊を飼って下さい。主は、ペテロに三度もわたしを愛するかと問われ、わたしを愛するならば、わたしの羊を養いなさいと語っておられます。今、教会が必要としているのは、牧師と協力して羊を飼う事のできる教会協力者です。羊のために祈り、世話し、養育する事のできる牧師の協力者です。もう一人の牧師ではなく、主に仕え、牧師に仕えて教会の具体的な協力のできる霊的な奉仕者です。あなたを選び、あなたを立てた主はあなたが実を結ぶよう望んでいます。あなたの上に主の豊かな導きと祝福を祈ります。

沖繩県那覇市首里石嶺4-356(〒903) 事務局 聖書学校 (電) (098) 937-8988 神学校 (電) (098) 884-4391

はたらき人

沖繩信徒聖書学校 沖繩聖書神学校



黒潮福音運動の提案

沖繩信徒聖書学校・聖書神学校
理事長 折田政博

沖繩信徒聖書学校改革の時が来ています。沖繩十萬救霊がさげばれて数年経過して、教会成長と信徒伝道者育成、そして宣教拠点の拡大の急務が求められています。先日、琉球新報と鹿児島県の南日本新聞、そして高知新聞の協力で黒潮シンポジウムがもたれ、黒潮宣言が採択されました。

これは、世俗の事で教会とは無関係の様に見えますが、その底流には見逃がせない。福音の源流につながるものがあります。

永田淳哉ジョン万次郎研究家はシンポジウムにおいて、「ジョン万の語りかけるもの黒潮が作った人間ドラマ」と題して発題していただきます。「ジョン万は帰国の際、なぜ琉球を大陸地に選んだか」という疑問を挙げ、ペリーやベッテルハイムが来流したと同じ背景があったのではないかと推測を述べています。

ジョン万次郎は、漂流後、福音

に触れ、鎖国下の日本に福音の息吹きを伝えた貴重な人物でした。ご存知の様に、ペリー上陸の記念碑が那覇市泊に立てられています。が、これらも福音を琉球に届けています。ベッテルハイムは、聖公会の宣教師で、現護国寺に起居して福音宣教に励んでいます。しかし、鎖国の中で、薩摩のきびしい制限をうけていたが、一生懸

十二名の兄弟学び舎菓立つ

卒業おめでとうございます

本日第十七期生として十一名の兄弟が、涙ぐましい祈りと努力にむくいられて卒業の荣誉にあずかっています。

今後牧師を助けて、伝道と教会形成のために御活躍されることを祈ります。

◎第十七期生

石川勝則(聖書長老恩龍)

命に福音の種をまきました。さて、黒潮体験は渡嘉敷の国立青年の家でのキャンプに行く途中黒潮を横切るといふ恐ろしい経験をしました。「これが黒潮だ」との新たな感動を昨日のこの様に覚えていきます。二十年前のことです。

黒潮は台湾、宮古、八重山、沖縄、そして中国沿岸を渡り鹿児島から高知にその恵みと情報を伝えてきました。全沖縄はもちろんのこと、九州、四国と、福音情報があまねく宣べ伝えられることは、神のみ心であります。

ここに、全沖縄に福音を満たし黒潮の行く処あまねく福音を届け



第17期卒業生

重原玲子()

☆

平良 康子

聖書学校創立以来、学びたいと祈って参りました。導かれて一七期生として入学から二ケ年、諸先生方の心温まる楽しい授業の日々でした。すべて感謝です。学びの友高橋姉が昨年夏、病気で天に召され、淋しい時もありました。

今後は、なお主の恵みにより神学校の聴講生として学び続けていけたらという思いで祈っております。

☆

翁長 桂子

主の愛、先生方の愛、兄弟姉妹の愛、家族の愛に励まされ、支えられて二ケ年間の学びを終えることができ心より感謝しています。試験の中で学びでしたが「キリストの愛」に守られて豊かに実を結ばせて下さいました。

学んだことを糧に「地の果てまでも福音をたずさえて行く」献身の思いをもって主にお仕えして行きます。卒業は新たなゴールをめざしての出発の時……。

☆

又吉 和子

このおぞましい罪の世界からわれみにより救われ、それだけでなく献身者として学ぶ特権が与えられたことは、言葉にあらわせない喜びです。イエス様と父なる神との親しい交わりは、どんなに麗わしく喜びに満ちたものであったことか、この喜びを、主に命がけで愛された私たちが受取ることが死を恐れない愛に生きることになると確信します。そしていつでも

第18回定期総会開かる

主から慰めを受ける者となるでしょう。聖書学校での学びは、イエスは主なりの確信が、大きな希望へと変えられる時です。

一九九一年十一月十一日午後七時三十分より沖繩祈禱院において、聖書学校、神学校の定期総会が開かれ、協力教会二十三のうち十四教会より代議二十二名の出席と五名の委任があった。開会礼拝後ただちに審議に入り、議長に宮村武夫牧師を選出し、聖書学校および神学校の学事報告、土地建物取得に関する会計報告等があった。

つづいて定款の一部改正、一九九二年の学事計画、予算等について熱心に討議がなされた。さらに次期校長の紹介、役員改選がなされた。



・神学校校長 渡真利文三師



・信徒聖書学校校長 松田 善弘師

◎新理事と担当

理事長 折田政博牧師
副理事長 国吉 守牧師

・信徒聖書学校担当理事

松田善弘牧師(校長)

新垣栄市牧師(事務局)

当銘由正牧師(財務)

国吉 守牧師

斉藤清次牧師

・神学校担当理事

渡真利文三牧師(校長)

連天康正牧師(専任教授)

安里嗣昌牧師(事務局)

古堅宗伸牧師(財務)

富村武夫牧師

◎一九九二年度予算

・信徒聖書学校

二、〇〇〇、〇〇〇円(うち協

力教会献金四十五万円、特別献金七〇、〇〇〇円)

※協力献金・特別献金は左記へお願いいたします。

・沖繩信徒聖書学校 当銘由正 琉球銀行那覇支店 三〇七-三六六八七

・沖繩聖書神学校 古堅宗伸 那覇市首里山川一-一七

※土地建物取得のための献金は、現在百万円さざげられている。さらにお祈りとご協力をお願いいたします。(郵便振込)

沖繩信徒・神学校 鹿児島四一三三六七六

一九九二年度

信徒聖書学校入学式

日時：四月七日(火)午後七時半
場所：沖繩祈禱院
一九九一年として十名の兄弟が入学することになりました。新しい門出のため多くの兄弟のご出席、祝福してくださいようお願いたします。